

学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名: 京都市立桃陽総合支援学校		
学級(学習集団)等の概要		
本時の学習集団等の特徴	<input type="checkbox"/> 通常の学習集団 <input checked="" type="checkbox"/> 通常とは異なる学習集団	本時の学習集団の人数: 16人
	<input checked="" type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input checked="" type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる	

学級(学習集団)等の概要	
授業日時: 平成24年2月17日 6時限目	学年: 小学部 第4, 5, 6学年
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (理科) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ()
単元名	いろいろな植物と空気の関わり
単元・題材の目標	(1) 植物が二酸化炭素を出していることを知る。 (2) 協力して実験する。
単元全体の流れ	第1時 空気の中には酸素と二酸化炭素などがあることを知る。 ヒトのはいた空気は二酸化炭素が増えていることを知る。 第2時 植物が二酸化炭素を出していることを知る。 第3時 野菜や果物が二酸化炭素を出していることを知る。(本時 3/3)
本時の目標	(1) 野菜や果物が二酸化炭素を出していることを知る。 (2) 協力して実験する。
本時の授業形態	本時の授業の場
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input checked="" type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input checked="" type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)

協働学習の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった <input type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった <input type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった <input type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった
-----------	---

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ会議システムを活用し、離れた場所の児童が相互にやり取りをしながら活動する。 ・リモートサイエンスラボを活用し、活動に制限がありその場ではできない活動を、離れた場で行う。
活用の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・普段、小人数で学習している児童が、友だちの発表を聞いたり活動する様子を見たりすることにより、普段より意欲的に活動したり、積極的に発表したりすることができた。 ・直接、機器に触れないが、映像や機器担当の指導者とのやり取りを通して、また、実験結果を自分で確認できることから、積極的に実験に取り組めた。 ・離れた場にいるが、同じ実験、活動をしているという意識を持って活動できた。
課題となる事項	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の声が小さく聞こえにくかったことがある。発表の際の声の大きさの指導が必要。 ・カメラの前を人が横切り、実験の様子が見えにくいことがあった。学習内容、活動に合わせて、カメラを設置する場所を工夫する必要がある。 ・学習が終わった後に、手を振ったり声をかけたりする様子が見られた。学習以外の場面での活用を工夫していく必要もある。 ・リモートサイエンスラボを使用する際には、今回は、うまくいったが、分教室の児童と機器担当の指導者との関わり方や児童主導になるようにすることなどに気をつける必要がある。

理 科 学 習 指 導 案

日 時：平成 24 年 2 月 1 7 日（金）第 6 校時（1 4 時 1 0 分～1 4 時 5 5 分）
学 年：小学部 4, 5, 6 年 京大分教室小学部 6 年
授 業 場 所：理科室, 京大分教室

1. 単元（題材）名
いろいろな植物と空気の関わり

2. 単元（題材）の目標
（1）植物が二酸化炭素を出していることを知る。
（2）協力して実験する。

3. 単元（題材）の指導計画
指導計画（全 3 時間）

時	主な学習活動・内容	主な使用機器
第 1 時	空気の中には酸素と二酸化炭素などがあることを知る。 ヒトのはいた空気は二酸化炭素が増えていることを知る。	IWB, イージーセンス, リモートカメラ, テレ ビ会議
第 2 時	植物が二酸化炭素を出していることを知る。	IWB, イージーセンス, リモートカメラ, テレ ビ会議
第 3 時	野菜や果物が二酸化炭素を出していることを知る。 (本時 3 / 3)	IWB, イージーセンス, リモートカメラ, テレ ビ会議,

4. 本時の目標
（1）野菜や果物が二酸化炭素を出していることを知る。
（2）協力して実験する。

5. 本時の情報通信技術（ICT）活用

活用する場面	・導入 ・展開 ・まとめ
活用する者〔目的〕	・児童・生徒〔・調べ学習 ・学び合い〕 ・指導者〔・課題提示 ・説明〕
活用するコンテンツ	ミーティングプラザ
活用する機器	IWB, イージーセンス, リモートカメラ, テレビ会議システム

6. 本時の展開

	学 習 活 動	活用機器 (活用者)	指導上の留意点・支援内容 【ICTによる支援】
導 入 展 開 ま と め	<p>一斉学習</p> <p>①本時の実験の仕方を確かめる。</p> <p>協働学習</p> <p>②それぞれの材料の二酸化炭素の濃さがどのように変化するか予想する。</p> <p>③実験の材料をビニル袋に入れて、センサーが袋の中に入るようにして口をとめる。</p> <p>④2分30秒たったら、ビニル袋に黒い袋をかぶせる。</p> <p>⑤5分たった時の二酸化炭素の濃さを調べて記録する。</p> <p>⑤グループごとに、いろいろな実験材料を入れた袋の二酸化炭素濃度を調べる。</p> <p>⑥グループごとに得られた結果を表にまとめる。</p> <p>協働学習→一斉学習</p> <p>⑦小さいホワイトボードに記入し、グループごとに発表する。</p> <p>個別学習→一斉学習</p> <p>⑧発表の結果から、わかったことや知りたいことなどをまとめて発表する。</p>	<p>テレビ会議（時間を通して）</p> <p>IWB（指導者）</p> <p>イージーセンス（児童）</p> <p>リモートサイエンスラボ（児童）</p>	<p>・実験の手順を示すとともに、手順を振り返りながら実験ができるように、写真を入れて印刷したプリントを班ごとに用意する。</p> <p>【リモートサイエンスラボを活用し、分教室の児童が自分たちで実験をすすめていけるようにする。】</p>

7. 本時の評価（評価の観点・観点別の評価を含む）

- (1) 野菜や果物が二酸化炭素を出していることを知る。
- (2) 協力して実験する。

8. 準備物

- ・ホウレンソウ ・いちご ・ジャガイモ ・みかん ・ビニル袋 ・ラッピングタイ ・イー
ジーセンス（二酸化炭素濃度検知センサー） ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー ＊
- 以上グループの数だけ ・リモートカメラ

学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名: 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学習集団 <input checked="" type="checkbox"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数: 9人 <input type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input checked="" type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時: 平成24年2月17日 5時限目	学年: 中学部 第1学年
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (国語) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ()
単元名	言葉を探検する ―短くて、願いが伝わる言葉を紹介し合おう―
単元・題材の目標	(1)身の回りの言葉について関心をもち、自分の考えをまとめること。 (2)聞き手を意識して、自分の考えや気持ちを話したり、話し手の意図を考えながら聞き取ったりすること。
単元全体の流れ	第1時:身の周りの言葉について見つめ直し、「短くて、願いが伝わる言葉」について考える。 第2時:グループで選んだ「短くて、願いが伝わる言葉」について、どのような願いが伝わるか考え、話し合う。 第3時:グループで、発表のための資料を作成する。(コラボノートを使って) 第4時:「短くて、願いが伝わる言葉」発表会をする。(本時4/4)
本時の目標	(1)話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などに注意して、わかりやすい発表をすること。 (2)必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えと比較し整理すること。
本時の授業形態	本時の授業の場
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input checked="" type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input type="checkbox"/> 複数教員による指導

	<input type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)
--	---

本時における情報通信技術の活用	
活用した機器	タブレットPC, 電子黒板
活用したコンテンツ	コラボノート, テレビ会議システム
活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input checked="" type="checkbox"/> まとめや振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 教員による説明 <input type="checkbox"/> レポート、作品等の作成 <input type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input checked="" type="checkbox"/> 意志の伝達

本時の展開		
学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器・コンテンツ
一斉学習 ①今日の学習の目標を確認する。 協働学習 ②グループごとに「短くて、願いが伝わる言葉」を発表する。 ③発表を聞いて、質問や感じたことを短い言葉で書き込む。 ④③で書き込まれた内容を共有する。 ⑤③で書き込んだ内容について口頭で発表する。 ⑥発表したグループが、質問に答えたり、感想を述べたりする。 個別学習 ⑦今日の学習について振り返り、感想を書く。	【テレビ会議システム(京大分教室と本校中1教室)】 ・わかりやすい発表となるように、また質問や感想を積極的に述べるように支援する。 【コラボノート・テレビ会議システム】 ・前時にコラボノートで作成した資料をTPCで共有する。 ・カメラの前で発表し、テレビ会議システムで分教室に向けて発表する。また分教室からも発表する。 【コラボノート】 ・付箋を使って質問や感想を書き込む。 ・書き込まれた内容を共有する。 【テレビ会議システム】 ・カメラの前で発表し、分教室と交流する。	TPC(生徒) IWB(生徒)(指導者)
協働学習の実施状況	<input type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった <input type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった <input type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった	

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	病院に入院しながら学校生活を送る生徒は、限られた人間関係の中で、自分の思いを伝えることが苦手である。また、他者の意見を聞いて、自分の考えを深めていく機会は少ない。今回テレビ会議システムを使って、自分の考えを伝えたり、お互いの考えを共有する活動を通して、表現活動への意欲を喚起し、いろいろな考え方や思いを共有することで、他者の気持ちを理解し自らの自信を育もうと考えた。
活用の効果	学習の成果を発表する活動は、生徒の学習意欲の向上につながる。普段、限られた環境の中で生活する生徒たちにとって、カメラの前に立ち改まった気分で思いを伝えるという活動は、意欲の向上を図るとともに、感動する心を育てる上で有効であった。自分の思いも熱心に伝えることができた。
課題となる事項	①音声環境のタイムラグ。 ②1台の定点カメラでは、話し手の表情とフロアーの表情が共有できにくい。

国語科 学習指導案

日 時：平成 24 年 2 月 17 日（金）第 5 校時（13 時 15 分～14 時 05 分）
学 年： 中学部 1 年
授 業 場 所： 中学部 1 年教室

1. 単元（題材）名

言葉を探検する ―短くて、願いが伝わる言葉を紹介し合おう―

2. 単元（題材）の目標

- （1）身の周りの言葉について関心をもち、自分の考えをまとめること。
- （2）聞き手を意識して、自分の考えや気持ちを話したり、話し手の意図を考えながら聞き取ったりすること。

3. 単元（題材）の指導計画

指導計画（全時間）

時	主な学習活動・内容	主な使用機器
第 1 時	身の周りの言葉について見つめ直し、「短くて、願いが伝わる言葉」について考える。	
第 2 時	グループで選んだ「短くて、願いが伝わる言葉」について、どのような願いが伝わるか考え、話し合う。	
第 3 時	グループで、発表のための資料を作成する。（コラボノートを使って）	TPC
第 4 時	「短くて、願いが伝わる言葉」発表会をする。（本時 4 / 4）	TPC IWB

4. 本時の目標

- （1）話す速度や音量，言葉の調子や間の取り方などに注意して，わかりやすい発表をすること。
- （2）必要に応じて質問しながら聞き取り，自分の考えと比較し整理すること。

5. 本時の情報通信技術（ICT）活用

活用する場面	展開
活用する者〔目的〕	・生徒〔協働学習〕 ・指導者〔コンテンツ提示〕
活用するコンテンツ	コラボノート テレビ会議システム
活用する機器	タブレットPC 電子黒板

6. 本時の展開

	学 習 活 動	活用機器 (活用者)	指導上の留意点・支援内容 【ICTによる支援】
導 入	<p>一斉学習</p> <p>①今日の学習の目標を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく発表する。 ・質問や感想を発表し、自分の考えと比べる。 		<p>【テレビ会議システム(京大分教室と本校中1教室)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい発表となるように、また質問や感想を積極的に述べるように支援する。
展 開	<p>協働学習</p> <p>② グループごとに「短くて、願いが伝わる言葉」を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の意味や使い方、またどのような願いが伝わるかについて調べたり考えたりしたことを分担して発表する。 <p>③ 発表を聞いて、質問や感じたことを短い言葉で書き込む。</p> <p>④ ③で書き込まれた内容を共有する。</p> <p>⑤ ③で書き込んだ内容について口頭で発表する。</p> <p>⑥ 発表したグループが、質問に答えたり、感想を述べたりする。</p>	<p>TPC (生徒) IWB (指導者)</p> <p>TPC (生徒)</p> <p>TPC (生徒)</p> <p>IWB (指導者)</p>	<p>【コラボノート・テレビ会議システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時にコラボノートで作成した資料をTPCで共有する。 ・カメラの前で発表し、テレビ会議システムで分教室に向けて発表する。また分教室からも発表する。 <p>【コラボノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋を使って質問や感想を書き込む。(本校と分教室で付箋の色を分ける。) ・書き込まれた内容を共有する。 <p>【テレビ会議システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カメラの前で発表し、分教室と交流する。
ま と め	<p>個別学習</p> <p>⑦ 今日の学習について振り返り、感想を書く。</p>	IWB (指導者)	<ul style="list-style-type: none"> ・発表や質問・感想の交流から、自分の考えとの共通点や相違点に気づき、言葉についての理解が深まったかどうか振り返る。

7. 本時の評価 (評価の観点・観点別の評価を含む)

- (1) 話す速度や音量, 言葉の調子や間の取り方などに注意して, わかりやすい発表をすることができたか。
- (2) 必要に応じて質問しながら聞き取り, 自分の考えと比較し整理することができたか。

8. 準備物 T P C I W B

学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名: 京都市立桃陽総合支援学校	
学級(学習集団)等の概要	
本時の学習集団等の特徴	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学習集団 <input type="checkbox"/> 通常とは異なる学習集団
	本時の学習集団の人数: 25人 <input checked="" type="checkbox"/> 複数学年の児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 習熟度別の学習集団を構成 <input type="checkbox"/> 小・中学校等との交流及び協働学習(次の2項の場合を除く) <input type="checkbox"/> 児童生徒の前籍校との交流及び共同学習 <input type="checkbox"/> 他の特別支援学校との交流 <input checked="" type="checkbox"/> 分校、分教室(病院内の学級を含む)等、普段は異なる場で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒と教室で学習する児童生徒で構成 <input type="checkbox"/> 病院内の学級の児童生徒のみで構成 <input type="checkbox"/> ベッドサイドで学習する児童生徒のみ <input checked="" type="checkbox"/> 発達障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 知的障害のある児童生徒が含まれる <input type="checkbox"/> 肢体不自由のある児童生徒が含まれる

学級(学習集団)等の概要	
授業日時: 平成24年2月24日 5時限目	学年: 中学部 第1, 2, 3学年
教科等	<input checked="" type="checkbox"/> 各教科 (道徳) <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> その他 ()
単元名	命の重さを考える
単元・題材の目標	3-1 (1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。
単元全体の流れ	第1時: 本校・分教室 交流「府立病院分教室紹介—分教室ってどんなところ」 第2時: 合同道徳(本時間) … 資料名映画 「TITANIC」 「ライフボート」 第3時: 道徳(学年別, 教室別)… 「命に順番はつけられますか」「命のバトン」
本時の目標	命の重さについて真剣に考えることができる。 命に向き合う勇気について考えることができる。
本時の授業形態	本時の授業の場
<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 協働学習 <input type="checkbox"/> 個別学習	<input type="checkbox"/> 児童生徒が1か所に集まって実施 <input type="checkbox"/> 校内の複数の教室等(同一敷地内)をネットワークで結んで実施 <input checked="" type="checkbox"/> 本校、分校、分教室(病院内の学級を含む)等をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と病院・施設等(病院内の学級を除く)をネットワークで結んで実施 <input type="checkbox"/> 本校等の教室と小・中学校、他の特別支援学校等をネットワークで結んで実施
本時の指導体制	<input type="checkbox"/> 担当教員1名のみ <input checked="" type="checkbox"/> 複数教員による指導 <input checked="" type="checkbox"/> ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として学習支援) <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員等によるサポート(主として介助等)

本時における情報通信技術の活用	
活用した	IWB

機器	
活用したコンテンツ	自作コンテンツ (PowerPoint) テレビ会議システム
活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 課題の提示や動機付け <input type="checkbox"/> 児童生徒による発表や話し合い、教え合い <input type="checkbox"/> 観察・実験や調査の記録 <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 直接経験の代行 <input type="checkbox"/> 意志の伝達 <input type="checkbox"/> まとめや振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 教員による説明 <input type="checkbox"/> レポート、作品等の作成

本時の展開		
学習の流れと児童生徒の活動	指導・支援のポイント	使用した機器・コンテンツ
<p>一斉学習</p> <p>①命の重さについて考えることを知る</p> <p>一斉学習</p> <p>②映画「TITANIC」は本当にあった出来事であることを知る。</p> <p>③「TITANIC」が沈没するまでのあらすじを知る。</p> <p>個別学習→協働学習</p> <p>④「ライフボート」のワーク 説明：「客船が嵐にあい座礁してしまう。船体が大きく傾き沈没の危険性が高まった。救命ボートがおろされ乗客たちが避難を始める。人々は「われ先に！」と乗り込む。最後のライフボートがおろされた。ボートに乗れるのはたった4人。しかし船上では6人の乗客が残されている。」</p> <p>・医者（男性）42歳，その妻35歳，女子中学生テニスプレーヤー（14歳），人気女優（25歳）アルコール中毒の僧侶（50歳），無職の老人（72歳）</p> <p>指示1：6人について乗せるか乗せないか，理由をあわせてワークシートに記入する。</p> <p>指示2：友達と意見を交流する。</p> <p>協働学習</p> <p>⑤意見を発表する。</p>	<p>・言葉での指示や説明だけでは理解が不十分になることが予測される。【授業中の指示や説明はすべて，パワーポイントで制作する。パワーポイントは「画像と短い言葉」だけのシンプルなデザインとする。】</p> <p>人の話は「目と耳と心で聞く」という「話を聞くルール」の確認。（テレビ会議システムでは複数の音声を拾い，音声が混乱するので特に注意する）</p> <p>発表の仕方を示しておく。 「医者は乗せ……。なぜなら……」</p>	<p>IWB（指導者） テレビ会議システム（指導者・生徒）</p>

<p>一斉学習 ⑥「ミス エヴァンズ」の物語を聞く。</p> <p>個別学習 ⑦今日の授業の感想を書く。</p>	<p>だからです。」</p> <p>・分教室全員・本校数名</p> <p>・ミス エヴァンズの行動に対して、じっくりと自分の意見を書く。</p>	
<p>協働学習の実施状況</p>	<p><input type="checkbox"/> 児童生徒が教え合う場面があった <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が話し合う場面があった</p> <p><input type="checkbox"/> 児童生徒が協力したり助け合ったりする場面があった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 一人の発表を基に学級(学習集団)全体で考える場面があった</p> <p><input type="checkbox"/> 同じ問題について学級(学習集団)全体で話し合う場面があった</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ネットワークを活用して遠隔地と結んで学ぶ場面があった</p>	

情報通信技術の活用のねらいと効果、課題	
活用のねらい	テレビ会議システムを使って分教室と本校の中学生が生命の尊さについてともに考える。病院生活という狭い環境で生活する生徒たちが、多くの仲間の意見を聞いて自分の考えを深める機会を作る。
活用の効果	<p>普段とは違う仲間の意見に触れ、生徒たちは新鮮な感動を覚えたようである。テレビ会議システムでは音声途切れたり、聞き取りにくいという状況が懸念される。視覚資料を使って音声での説明を補助する形のコンテンツを作成した。コンテンツの活用は、授業の流れがわかりやすく、資料の内容を全員がとらえる効果があった。</p> <p>お互いの意見を述べあう活動場面では、IWB をしっかり見つめ、顔をあげてお互いの意見を聞きあっていた。</p>
課題となる事項	<p>・音声の不安定さ</p> <p>・映像のズームや数カ所からのアングルが送信できるシステム。 (現在は一点からの放映である。全体、個人を写すバリエーションがほしい。)</p>

道徳学習指導案

日 時：平成23年2月24日（金）第5校時（13時15分～14時05分）
学 年：中学部1，2，3年生
授 業 場 所：学習室1

1. 主題名「命の重さを考える」
3－（1）生命の尊さを理解し，かけがえのない自他の生命を尊重する。

2. 資料名映画 「TITANIC」 「ライフボート」

3. 単元（題材）の指導計画
指導計画（全3時間）

時	主な学習活動・内容	主な使用機器
第1時 (特別活動)	「おたがいを知ろう」 ・ 府立医大病院分教室に入院する児童生徒の病状理解 (分教室→本校) ・ 本校，分校紹介（分教室←→本校）	・ IWB ・ テレビ会議システム
第2時 (道徳)	「命の重さを考える」（本時）	・ IWB ・ テレビ会議システム
第3時 (道徳)	「命に順番はつけられますか」 「命のバトン」	

4. 本時の目標
(1) 命の重さについて真剣に考えることができる。
命に向き合う勇気について考えることができる。

5. 本時の情報通信技術（ICT）活用

活用する場面	・ 導入 ・ 展開 ・ 終末
活用する者〔目的〕	・ 児童・生徒〔・ 個別学習 ・ 協働学習 〕 ・ 指導者〔・ コンテンツ提示，資料提示 〕
活用するコンテンツ	・ 自作コンテンツ
活用する機器	・ IWB（テレビ会議システム）

6. 本時の展開

	学 習 活 動	活用機器 (活用者)	指導上の留意点・支援内容 【ICTによる支援】	
導 入	<p>一斉学習</p> <p>①命の重さについて考えることを知る</p>	IWB (指導者) テレビ会議システム (指導者・生徒)	<p>・言葉での指示や説明だけでは理解が不十分になることが予測される。【授業中の指示や説明はすべて、パワーポイントで制作する。パワーポイントは「画像と短い言葉」だけのシンプルなデザインとする。】</p>	
展 開	<p>一斉学習</p> <p>②映画「TITANIC」は本当にあった出来事であることを知る。</p> <p>③「TITANIC」が沈没するまでのあらすじを知る。</p> <p>個別学習→協働学習</p> <p>④「ライフボート」のワーク</p> <p>説明：「客船が嵐にあい座礁してしまう。船体が大きく傾き沈没の危険性が高まった。救命ボートがおろされ乗客たちが避難を始める。人々は「われ先に！」と乗り込む。最後のライフボートがおろされた。ボートに乗れるのはたった4人。しかし船上では6人の乗客が残されている。」</p> <p>・医者（男性）42歳，その妻35歳，女子中学生テニスプレイヤー（14歳），人気女優（25歳）アルコール中毒の僧侶（50歳），無職の老人（72歳）</p> <p>指示1：6人について乗せるか乗せないか，理由をあわせてワークシートに記入する。</p> <p>指示2：友達と意見を交流する。</p>			
	<p>協働学習</p> <p>⑤意見を発表する。</p>			<p>人の話は「目と耳と心で聞く」という「話を聞くルール」の確認。（テレビ会議システムでは複数の音声を拾い，音声が混乱するので特に注意する）</p>
終 末	<p>一斉学習</p> <p>⑥「ミス エヴァンズ」の物語を聞く</p> <p>個別学習 ⑦今日の授業の感想を書く。</p>			<p>発表の仕方を示しておく。</p> <p>「医者は乗せ……。なぜなら……。だからです。」</p> <p>・分教室全員・本校数名</p> <p>・ミス エヴァンズの行動に対して，じっくりと自分の意見を書く。</p>

7. 本時の評価（評価の観点・観点別の評価を含む）

「命の重さ」とその命を救う「勇気ある行動」について考え，自他の命の重さについて考えを深めることができたか。

8. 準備物 ワークシート，パワーポイント，提示用画像，IWB